

青葡萄

栗原真佐代詩集



青 葡 萄

栗原真佐代詩集



現代詩工房

詩集 青葡萄

定価 700円

印刷 昭和47年8月20日

発行 昭和47年9月1日

著者 栗原真佐代
埼玉県熊谷市宮本町16

発行者 秋谷 豊

発行所 株式会社 現代詩工房

〒336 浦和市元町3-2-10

振替東京49526・電話(0488)86-8025

詩集

青葡萄

目次

回 転 木 馬	3
変 身	6
ブライテン 鳥	7
海	10
れんげ草	11
鳥	13
午後の詩	14
道 化	18
夏	19
鳥	21
墓	22
墓守の死	23
埋 葬	25
お伽話の真実	26

海　の　星	28
恋	29
ト　マ　ト	30
あした会えたら	31
パースデイ	33
月曜日の朝	34
コスモス	35
そして	36
九十九里浜	37
つ　　る	38
跋	43
龍　前　貞　夫	

詩
集

青
葡
萄

栗
原
真
佐
代

回 転 木 馬

あなたが少年のような笑顔で

羞恥に顔をそめた私の影を

すっぽりつつんでしまうと

かすかなめまいの中に

あなたの

はかることのできないところの奥底に

幼い頃の私が旋回しているのを

感じることができるのです

萌黄の光に

とほれるような喜びを映しながら

回転木馬に乗った二人の少女

あなたのその小さなふたつの手を

私に重ねてたしかめあった

日々

触れあった感情が

からんだ指のあいだから

落ちはしまいかと

砂を握りしめたあなたの

揺れ動く髪がうつくしかった

冬の夜

塑像のつめたい感触があなたに

つたわり

荒涼とした二人のすみかに

横たわっていた

△砂の中に埋もれていた小さな塑像▽

草の上の露のように

萌黄の季節は絶えることなくやってきた

新しい回転木馬は喜びをはこぶ

ためらう私とあなたを残して

幼い少女の笑顔がまわりつづける

変身

彗星があざやかな光を残して消えてしまうと
わたしの指と指との間に交される

花粉たちの愛のことばは

あせばんだ薔薇のため息のように

うっとおしく実を結び

やさしい森が朝露に濡れる頃

白すぎる花びらに孤独の輝きをたたえて

一輪の水仙がひっそりと開花した

ブライアン
鳥

絶えず誰かが

はかいの方向にむかっているように

ブライアン
鳥は

空間の中の夏を追う

愛の不在は

マスケエムのように正確な時間を

わすれさせた

通じあう言葉を持っているというのは

錯覚であり

求めあっているという自負は
すでに過去のかげにすぎない

現在 保たれているのは信頼ではなく
あなたとの距離だ

飾りたてられた羽で
太陽に向かう鳥
フライアン

夏の正体は何であるかも知らず
かわいたのどから声をあげ
何も見ない目に意志を持ち
そうして

太陽に失われてしまったもののすべてを
ききみこむ

海

美しいものは残酷なものだ

静かすぎる世界は危険だ

だが

私たちは海の底を

美しく静かな安らぎのあるところだと

信じている

れんげ草

れんげの中に子供がたわむれ
れんげの中に春が踊る
れんげはあかく光に映り
子供は光を摘んでいく
川にこぼれた光の中で
れんげが流れ
子供が笑う
やわらかなれんげに
ほほが触れ
からだに触れて